

生きるとは？(5)

「それでも人生にアーメン」

(河村 従彦 牧師)

【聖書のみことば】 伝道者の書 5章 10-20節

- 10 金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた、むなしい。
- 11 財産がふえると、寄食者もふえる。持ち主にとって何の益になろう。彼はそれを目で見るだけだ。
- 12 働く者は、少し食べても多く食べても、ここちよく眠る。富む者は、満腹しても、安眠をとどめられる。
- 13 私は日の下に、痛ましいことがあるのを見た。所有者に守られている富が、その人に害を加えることだ。
- 14 その富は不幸な出来事で失われ、子どもが生まれても、自分の手もとには何も無い。
- 15 母の胎から出て来たときのように、また裸でもとの所に帰る。彼は、自分の労苦によって得たものを、何一つ手に携えて行くことができない。
- 16 これも痛ましいことだ。出て来たときと全く同じようにして去って行く。風のために労
- 17 しかも、人は一生、やみの中で食事をする。多くの苦痛、病気、そして怒り。
- 18 見よ。私がよいと見たこと、好ましいことは、神がその人に許されるいのちの日数の間、日の下で骨折るすべての労苦のうちに、しあわせを見つけて、食べたり飲んだりすることだ。これが人の受ける分なのだ。
- 19 実に神はすべての人間に富と財宝を与え、これを楽しむことを許し、自分の受ける分を受け、自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。
- 20 こういう人は、自分の生涯のことをくよくよ思わない。神が彼の心を喜びで満たされるからだ。